

令和5年度
事業報告書

自 令和5年4月 1日
至 令和6年3月31日

はじめに

日頃から協会活動にご支援を賜り厚くお礼申し上げます。
令和5年度事業についてご報告申し上げます。

2023年度（令和5年度）の協会活動は、新型コロナウイルスの影響も軽微となり、フェイス・トゥ・フェイスの教育講座や交流活動なども実施できる環境が整いました。

各委員会、部会が主催するすべての協会事業において、ポストコロナの新しい活動の在り方を検討し、参加者のニーズや活動の目的を踏まえて最適な活動形態での実施を心がけるとともに、新たな取り組みによるトライ&エラーも行いました。

事業収支において主力となる公益事業である教育研修事業、資格制度を中心とする人材育成事業、また協会のレピュテーションを高めるために重要な顕彰事業、及び広報事業、さらには協会内外のネットワーク基盤となる国際・交流事業などにおいて持続可能な事業運営が行える体制づくりを進めました。

教育研修事業の柱である教育委員会主催の講座やセミナーは、コロナ禍の期間中にノウハウを得たオンラインによるライブ配信、オンデマンド配信に加え、必要性がある講座については対面講座を復活させました。またPRプランナー資格検定試験については、CBT（Computer Based Testing）方式に定着させました。

顕彰事業については、PRアワードグランプリ2023の表彰式およびプレゼンテーションを2019年以来となる対面形式における一般参加も含めた実施が可能になりました。国際・交流事業においても対面での夏季情報交換会が開催され、コロナ禍の期間中にご入会いただいた会員とのフェイス・トゥ・フェイスでの交流も実現しました。

こうした一連の活動の様子はウェブサイトやSNSを通して広報され、新たな会員の入会などにつながっています。

「PRパーソンからパブリックリレーションズ・プロフェッショナルへ」を基本方針に掲げた中期計画においては、基幹となる教育研修事業において、一方向的な講座プログラムのみならず、実習プログラムも復活導入し、インタラクティブな学びの機会も提供することができるようになりました。

また、一般企業におけるプロ資格化の流れや、さまざまところで聞かれる「ひとり広報」の実態などを情報収集し、各委員会、部会においても「パブリックリレーションズ・プロフェッショナル」についての議論は継続的に行いました。

次の中期計画においては、こうした動きをとらえ、PRパーソンにとってのキャリア形成の全体像を示し、「パブリックリレーションズ・プロフェッショナルの育成」に向けて各事業のシナジーを発揮していくことを検討しています。

今年度の事業収支については、残念ながら2年続けてのマイナス収支となりました。事業収支において大きな部分を占める教育・資格の両事業が予算未達であったこと、また印刷費などを含めた物価上昇の影響などがあり、協会の財政も厳しい局面を迎えています。

しかしながら、新入会員の増加による会費の増加傾向や資格試験受験者の安定的な増加など今後に期待できる事象もあり、ポストコロナの新たなパブリックリレーションズに対する社会的な期待に応えられるように、協会一体となって新たな活動提案を進めていくことで、この難局を乗り切っていく所存です。

引き続き会員の皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

I. 公益目的事業（パブリックリレーションズに関する普及啓発事業）

1. パブリックリレーションズに関する倫理綱領の確立および実践

パブリックリレーションズに関する倫理綱領を確立し、研修会・講演会などの開催を通じて教育と人材育成を行うことにより、パブリックリレーションズの健全な発展とわが国の産業・経済・社会の健全な発展に寄与する事業を継続して行う。

2. パブリックリレーションズの啓発・普及ならびに専門人材の育成に向けた教育研修事業

わが国におけるパブリックリレーションズの発展と成長を目的とする当協会の設立趣旨に鑑み、その永続的な啓発・普及ならびに産業・経済・社会の発展に寄与する高度な能力を備える専門人材の育成をめざす公益的な教育研修事業として、研修会、セミナー、オンライン講座等の各種の研鑽機会を広く人々に提供した。

(1) 「パブリックリレーションズ実務講座」

ア 入門（基礎）プログラム

比較的経験の浅い新任実務者、パブリックリレーションズについて基礎から学びたい方を主な対象とし、実務に必要な基本的な知識やスキルの習得を目的とするプログラム。

(ア)「パブリックリレーションズ入門 Web 講座」

新入社員、社内異動等により春期に着任する新任実務者が対象。パブリックリレーションズの基本をはじめとして、実務遂行に欠かせない最も基本的な知識、スキルを講義と演習を通じて習得する。令和5年度は、オンラインによるオンデマンド方式で5月に開講した。公開期間は5月18日（木）から通年開講。参加者は一括受講59名（会員39名、一般19名、PRプラ1名）、コース受講13名（会員10名、一般3名、PRプラ0名）、講座の概要は以下のとおり。

コースの構成	講座テーマ	講師
コースA 「パブリックリレーションズの基本」	A－1 『パブリックリレーションズの基本～『PR』の概念と経営への貢献～』	東京都市大学 都市生活学部／大学院環境情報学研究科 准教授 北見幸一氏
	A－2 「企業広報の基本と実際～目的・機能・役割と具体的な活動～」	企業広報コンサルタント／前 鴻池運輸(株) 広報室長 岩切正哉氏
	A－3 「これからのマーケティングPR～社会課題の解決を志向する事業とPR～」	(株)博報堂 αクリエイティブ局 局長代理／クリエイティブディレクター 永渕雄也氏
コースB 「パブリックリレーションズの重要分野」	B－1 「SDGsの基本とパブリックリレーションズ～企業価値を創るSDGs・ESGと広報部門の役割～」	日経BP 『日経ESG』副編集長 半澤 智氏
	B－2 「危機管理広報の重要性とその基本～危機対応における広報の役割～」	(株)電通PRコンサルティング ステークホルダーエンゲージメント局 エグゼクティブチーフコンサルタント 松本 太氏

	B-3「広報・PRパーソンが知っておくべき法的ポイント」	西村あさひ法律事務所 弁護士 鈴木悠介氏
コースC 「メディアリレーションズの基本」	C-1「メディアリレーションズの基本～メディアの特性とアプローチのポイント～」	エバラ食品工業(株) 執行役員 経営企画本部長 上岡典彦氏
	C-2「デジタルPRの基本～PESOの概念と活用の考え方～」	(株)クラウドワークス 広報責任者 飯田真吾氏
	C-3「企業広報に向けたメディアの期待～新聞・雑誌作りの現場から～」	中央公論新社 代表取締役社長 安部順一氏

(イ)「ニュースリリース入門ワークショップ」

広報ツールの代表ともいえるニュースリリースについて、その概念や役割、作成の仕方、配布法に加え、デジタル環境における効果的な活用方法を学ぶ。令和5年度は6月23日(金)に会場で開催し、講義に加え演習を通じてニュースリリースの作成と活用について習得をはかった。受講者17名(会員16名、一般1名、PRプラ0名)、講座の概要は以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講師
6月23日(金)	実践！新任広報担当者のためのニュースリリース作成と活用	(株)共同通信PRワイヤー 営業部 営業企画課 次長 西林祐美氏

(ウ)「メディアリレーションズ入門ワークショップ」

テレビ、新聞をはじめとする多様なマスメディアの種類や特性、アプローチ法の基本とともに、近年は広報メディアとして重要性を高めているデジタルメディアの特性や活用のポイントについても解説いただき、それらのメディアを統合的に活用する考え方やポイントを学んだ。令和5年度は7月6日(木)に会場で開催し、講義に加え演習を通じて習得をはかった。受講者19名(会員16名、一般2名、PRプラ0名、優待1名)、講座の概要は以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講師
7月6日(木)	新任広報担当者のためのメディアリレーションズ～現場の疑問に答えるメディア対応の実践入門～	(株)マテリアル マーケティング PRトレーナー／認定企業危機管理士 田代 順氏

イ 中堅実務プログラム

業務の経験を有する実務者を対象とし、専門性の高い講義や演習を通じて、パブリックリレーションズに関する実践的な知識やスキルを習得するプログラム。

令和5年度は、複数の講座で構成しより充実した内容を習得可能な「PR集中テーマスタディ」、PRアワードを受賞したプロジェクト事例を中心にとり上げそのポイントを解説する「PRケーススタディ」、重要スキルや最新メソッドをテーマとし演習等を交えて実践的に習得をはかる「PRトレーニングプログラム」の3系列に再編して開講した。

(ア)「PR集中テーマスタディ」

PRパーソンにとって関心の高いテーマをとり上げ、それぞれを異なる立場から3人の講師に多角的に解説いただき、テーマに関してより深く理解する講座。会員の意向を考慮して3テーマを設定し、それぞれのテーマに基づく講義を通じてそのポイントを解説した。令和5年度は7月からオンラインで開講した。各講座の受講者と講座の概要は以下のとおり。

<第1回>リスクコミュニケーション（危機管理広報）

受講者 15 名（会員 6 名、一般 0 名、PRプラ 0 名、優待 8 名、役員 1 名）

視聴期間	講座テーマ	講師
令和5年 7月25日(火) ～令和6年 7月31日(水)	■講義 1 危機管理の基本とコミュニケーション	(株)電通PRコンサルティング ステークホルダーエンゲージメント局 エグゼクティブコンサルタント 松本 太氏
	■講義 2 最新の危機管理事例の分析と対応成否のポイント	報道対策アドバイザー 窪田順生氏
	■講義 3 デジタルリスクの考え方と取り組み～ネット『炎上』にいかに対処すべきか？～	シエンプレ(株) デジタルクライシス総合研究所 シニアマネージャー／主席研究員 桑江 令氏

<第2回>戦略的コーポレートコミュニケーションの新展開

受講者 13 名（会員 9 名、一般 2 名、PRプラ 0 名、優待 2 名）

視聴期間	講座テーマ	講師
令和5年 11月22日(水) ～令和6年 11月22日(金)	■講義 1 企業価値向上のための戦略コミュニケーションとは？	(株)はね 代表取締役社長 矢嶋 聡氏
	■講義 2 戦略的コーポレートサイトの構築～企業の存在価値をステークホルダーにどう伝えるか～	(株)クラウドワークス IR・PR室長 飯田真吾氏
	■講義 3 企業価値を伝え、高める広報戦略プランニングのキーポイント	(株)電通PRコンサルティング ステークホルダー・エンゲージメント局 企画開発部長兼企業広報戦略研究所 上席研究員 坂本陽亮氏

<第3回>ブランディングを実現する最新PR戦略

受講者 13 名（会員 6 名、一般 1 名、PRプラ 1 名、優待 3 名、役員 2 名）

視聴期間	講座テーマ	講師
令和5年 2月21日(水)～ 令和6年 2月20日(木)	■講義 1 『生活者』に寄り添うSNS・戦略PRを通じたアプローチ～Mizkanのコーポレート・ブランディング戦略～	(株) Mizkan CRM本部 課長 田中保憲氏

	■講義 2 PR発想を軸とした商品ブランディングの展開～『Cycle.me』に籠めたドットミーのブランディング戦略～	(株)博報堂 αクリエイティブ局 PRディレクター 石川りえ氏
	■講義 3 地域との共生をめざすパブリックリレーションズの取組み～インターナルから進めたマルハンのブランディング戦略～	(株)マルハン 北日本カンパニー 営業戦略部 販売促進課 課長 遊佐孝一郎氏

(イ)「PRケーススタディ 2023」

「PRアワードグランプリ」における各賞を受賞した多様なPRプロジェクト事例を中心にとり上げ、それぞれのプロジェクト推進における戦略や計画の立案ポイント、施策実施における苦労や工夫点などについてケーススタディとして解説いただいた。テーマ別に1講座あたり3プロジェクト事例の解説で構成し、オンラインで開講した。各講座の受講者と講座の概要は以下のとおり。

＜第1回＞卓越したPRプロジェクトから成功のポイントを学ぶ

～「PRアワードグランプリ」受賞事例を中心に秘められた戦略・プラン・施策を探る～
 受講者 11名（会員8名、一般1名、PRプラ2名）

視聴期間	講座テーマ	講師
令和5年 7月18日(火) ～令和6年 3月28日(木)	■ケーススタディ 1 PRアワードグランプリ2022 ブロンズ受賞「『ストレス買取センター』～あなたのストレス買い取ります～」	(合)ユー・エス・ジェイ ブランドPR ディレクター 柳沢洋子氏
	■ケーススタディ 2 PRアワードグランプリ2022 ブロンズ受賞「ナプキンがトイレで受け取れる体験を当たり前にしていく共創実験『トレルナプロジェクト』～新しい常識をつくる「トレルナ」の共創型実証実験PR～」	(株)プラチナム グローバルコミュニケーション局 PRプランナー 小田切 萌氏
	■ケーススタディ 3 「“手間抜き論争” から “フライパン” まで 味の素冷凍食品 冷凍餃子の戦略PR」	味の素冷凍食品(株) 戦略コミュニケーション部 PRグループ長 勝村敬太氏

＜第2回＞社会課題の解決をめざすPRのチャレンジ

プロジェクトを支えた戦略やプラン、施策、成功のポイントを学ぶ

受講者 13名（会員9名、一般0名、PRプラ0名、優待2名、役員2名）

視聴期間	講座テーマ	講師
令和5年 10月24日(火) ～令和6年 3月28日(木)	■ケーススタディ 1 PRアワードグランプリ2022 ゴールド受賞「あらゆる人の“したい暮らし”を実現する「FRIENDLY DOOR」プロジェクト」	(株)LIFULL クリエイティブ本部 ブランドコミュニケーション部 PRグループ グループ長 遠山佳子氏

	■ケーススタディ 2 PRアワードグランプリ2022 シルバー受賞「ブランドを社会発想で価値化し、仲間を巻き込む PR コンテンツに！『人にやさしくなるゲーム』」	(株)博報堂 PR局 プランニング1部 PRディレクター／コンテクストデザインディレクター 村山 駿氏
	■ケーススタディ 3 PRアワードグランプリ2021 シルバー受賞「健康経営の隠れた課題 “みえない多様性” に優しい職場づくりプロジェクト」	日本イーライリリー(株) コーポレート・アフェアーズ本部 広報・CSR・アドボカシー 担当課長 小宮山 幸氏

(ウ)「PRトレーニングプログラム」

多様な現場において実務の遂行に役立つ柔軟な対応力、問題解決能力の向上を目的とする、ワークショップ形式によるPRスキルおよびメソッドのトレーニングプログラム。現場経験豊富な実務専門家の指導による対面開催を基本とし、講師と受講者、受講者相互の交流を通じたネットワーク作りにも配慮した。2023年度はテーマ別に3回の講座開講を予定したが、PR実務者のニーズや講座コンセプト、収益見込み等を十分に整理できず開講を1回にとどめ、引き続き次年度以降での開講を検討することとした。なお、第1回は「緊急記者会見トレーニング」をテーマとして設定し、受講者も16名に限定して対面開催を行った。受講者16名（会員14名、一般2名、PRプラ0名）

第1回講座の概要は以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講師
2月15日(水)	法的視点をふまえた危機管理広報と緊急記者会見～危機対応の現実感・緊迫感を体感する会見シミュレーション・トレーニング～	西村あさひ法律事務所 パートナー 弁護士 鈴木悠介氏

ウ 上級プログラム

パブリックリレーションズにおける上級管理職、実務経験の豊富な中堅実務者を対象に、それぞれの立場に応じたプロフェッショナルとして不可欠な考え方、専門的な知識やスキルを習得するプログラム。「新任広報部長講座」「パブリックリレーションズ中堅実務者講座」「プロフェッショナルスキル育成講座」の3プログラムにより構成している。

(ア)「新任広報部長講座 2023」

広報部長や広報担当役員など広報部門の上級管理職を対象として、現職の広報部門上級管理職、報道関係者、法律専門家などを講師として開講する。就任後に直面する数々の悩みについて共有できるよう講師、受講者の交流機会も設けた。令和5年度は会場で7月26日(水)に開講した。受講者10名（会員9名、一般1名、PRプラ0名）、講座の概要は以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講師
7月26日(水)	企業における広報部長の責任と役割	(株)コーセー 執行役員 経営企画部長 原谷美典氏
	朝日新聞経済部からみた企業と広報部長	朝日新聞東京本社 経済部長 西山公隆氏
	危機管理・企業ガバナンスと広報部長の役割	西村あさひ法律事務所 弁護士 鈴木悠介氏

(イ)「パブリックリレーションズ中堅実務者講座」

現場における中心的な存在として業務をリードする中堅実務者に求められる考え方や心構え、実務スキルのポイントを習得する講座。令和5年度は対面開催を基本とし、講義に加えワークショップも交え、相互の交流を通じた受講者のネットワーク作りにも配慮した。7月には会場で開講、その内容を動画収録して10月にはオンデマンド開講。

会場：受講者16名（会員12名、一般2名、PRプラ1名、優待1名）

オンデマンド：受講者12名（会員9名、一般1名、PRプラ1名、優待1名）※3/31現在。講座の概要は以下のとおり。

視聴期間	講座テーマ	講師
[会場] 令和5年7月21日 (金) [オンデマンド] 令和5年 10月26日(木)～ 令和6年4月26日 (木)	「広報」の存在価値を高めるには？ ～中堅広報実務者が持つべき視座、 考え方の要諦と実務～	森ビル(株) 特任執行役員 広報室 長／サステナビリティ委員会 事務 局長 野村秀樹氏

(ウ)プロフェッショナルスキル育成講座（仮称）

パブリックリレーションズのプロフェッショナルを志す実務者を対象に、協会の中期計画のなかで構想がまとめられた「PRプロフェッショナル」として備えておくべき知識、スキルを身に着けることを目的として開講を計画した。令和5年度においても協会内で「PRプロフェッショナル」として備えるべき知識、スキルの要件について検討したが整理が完了せず、本講座の開講は令和6年度以降に持ち越すこととした。

(2)「PRプランナー試験対策講座」

「PRSJ 認定PRプランナー」の資格取得を目的に、試験の合格に必要な知識やスキルの習得をめざす講座。いずれもオンデマンド方式によるオンライン講座として通年開講し、任意の時期に受講を可能とする。

ア 「1次試験対策講座」

パブリックリレーションズにかかわる幅広い分野を平易に解説し、1次試験の合格に必要な

な知識の習得を図る講座。

受講者はのべ105名（会員29名、一般75名、学生1名）、講座の概要は以下のとおり。

講座テーマ	講師
・広報・PRの基本 ・企業経営と広報・PR ・広報・PR活動のマネジメント ・コミュニケーションの基礎理論 ・マーケティングの基礎理論 ・マーケティングと広報・PR ・ブランドの基礎理論	(株)井之上パブリックリレーションズ 横田和明氏
・メディアリレーションズ ・CSR（企業の社会的責任） ・インターナル・コミュニケーション ・IR（インベスターリレーションズ） ・グローバル広報 ・危機管理広報 ・行政・団体等の広報・PR	(株)エイレックス 畑山 純氏

イ 「2次試験対策講座」

パブリックリレーションズにかかわる専門分野を平易に解説し、2次試験の合格に必要な知識の習得を図る講座。受講者はのべ80名（会員28名、一般41名、PRプラ11名）、講座の概要は以下のとおり。

	講座テーマ	講師
第1章	経営環境の変化と広報・PR	エバラ食品工業(株) 上岡典彦氏
第2章	CSRと広報・PR	(株)電通PRコンサルティング 大川陽子氏
第3章	インターナル・コミュニケーション戦略	(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ 飾森亜樹子氏
第4章	IR活動の実務	(株)エイレックス 江良嘉則氏
第5章	グローバル広報の実務	(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ 飾森亜樹子氏
第6章	危機管理広報の実務	(株)エイレックス 平野日出木氏
第7章	マーケティング・マネジメント	(株)博報堂 小林由夏氏
第8章	マーケティング・コミュニケーションの実務	(株)博報堂 小林由夏氏
第9章	マーケティングと広報・PRの動向	(株)電通PRコンサルティング 柴野雅彦氏
第10章	マスメディアとソーシャルメディア	(株)電通PRコンサルティング 国田智子氏

第11章	メディアリレーションズの実務	(株)オズマピーアール 伊郷美貴氏
第12章	自社メディアの活用	(株)クラウドワークス 飯田真吾氏
第13章	広報・PR戦略立案の実務知識	(株)オズマピーアール 野村康史郎氏
第14章	時事問題	(一社)「企業広報研究ネットワーク」理 事長／元読売新聞 尾関謙一郎氏

ウ 「3次試験対策講座」

3次試験の課題となる企画書作成、ニュースリリース、広報・PR計画の立案作成（マーケティングおよびコーポレート）などのテーマについて、講義と演習を通じて合格に必要な知識とスキルを習得する試験対策の実践講座。受講者はのべ131名（会員36名、一般67名、PRプラ28名）、講座の概要は以下のとおり。

講座テーマ	講師
「新3次試験の概要と計画作成の基本」（講義）	(株)井之上パブリックリレーションズ 横田和明氏
「ニュースリリースの作成」（講義＋演習）	(公社)日本パブリックリレーションズ 協会 青田浩治氏
「広報・PR計画の立案作成（コーポレート課題） （講義＋演習）」	(株)グッドパッチ 高野祐樹氏
「広報・PR計画の立案作成（マーケティング課題） （講義＋演習）」	(株)オズマピーアール 野村康史郎氏

(3) 「PRSJ セミナー」

パブリックリレーションズ関係者に有用な話題やトレンドをテーマに開催するセミナー。パブリックリレーションズの公共性、公益性を鑑み、会員だけでなく一般にも広く公開する。令和5年度は、感染症をめぐる社会状況に考慮しながら講師および参加者相互のコミュニケーション、交流の復活に配慮して実施を計画した。

ア 「新春PRフォーラム」

パブリックリレーションズに関する重要なテーマを設定し、そのテーマに知見の深い実務家、企業マネージャー、学識者を招いて様々な角度から問題を掘り下げる。年初を飾るイベントとして、令和5年度は1月22日（月）に国際文化会館で開催した。会場開催参加者は63名。オンデマンド配信期間は2月13日（火）～2月26日（月）。聴講申込者は9名。テーマと登壇者は下記の通り。

開催日	講座テーマ	講師
[会場] 令和6年 1月22日（月）	経営とパブリックリレーションズ・ プロフェッショナルとは ～新たな 時代におけるPRパーソンへの期待と	(株)西武ホールディングス 代表取 締役社長 社長執行役員兼COO 西山隆一郎氏

[オンデマンド] 令和6年 2月13日(火)～ 令和6年 2月26日(月)	課題～	
---	-----	--

イ 「PRアワード受賞事例公開セミナー2024」

「PRアワードグランプリ」のグランプリをはじめとする優れた顕彰事例を紹介するセミナー。パブリックリレーションズ事例に関心を持つ実務者一般、研究者、学生を対象に、成功したプロジェクト事例を題材に、アイデアの創出や企画推進の考え方、工夫等を学んだ。会場で開講した。受講者54名（会員48名、一般4名、PRプラ2名）、セミナーの概要は以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講師
2月22日(木)	講演1：＜シルバー受賞＞「ジュエリーそのものを見てほしい。ブランド名を伏せて現れた謎のジュエリーショップ『匿名宝飾店』」	(株)エフ・ディ・シィ・プロダクツ 神島涼子氏
	講演2：＜ゴールド受賞＞「日本に眠る5兆円の敷金をスタートアップの成長資金に変える『敷金を成長資金に。プロジェクト』」	(株)はずむ 森本進一氏
	講演3：＜ゴールド受賞＞「守るのは、頭と地球。HOTAMET」	TBWA HAKUHODO 加藤 卓氏
	講演4：＜グランプリ受賞＞「非流通空き家を借り手の想いで動かす『さかさま不動産』～逆転の発想で挑戦を応援するまちづくりへ～」	(株)On-Co 水谷岳史氏・福田ミキ氏
	審査委員長講演 「3つの『視座』から展望するこれからのPR」	PRアワードグランプリ2023審査委員長 本田哲也氏 (株)本田事務所 代表取締役

ウ 「PRプランナーフォーラム」

PRプランナー資格認定制度の創設以来、認定PRプランナーは累計で約3,300名（令和6年3月末現在）となっている。一般の参加者および、PRプランナー資格取得者を対象とした、PRプランナー同士の交流促進やPRプランナーとしてのさらなるスキルアップを目指して、「PRプランナーフォーラム」の開催に向け検討していたが、スケジュールの都合により開催を見合わせた。

エ 「定例会」（関西地区）

会員のニーズを汲み上げ、各種メディアを中心に有識者、各界各層から旬の講師を招いて講演・研修会および交流会の開催を計画し、会員のみならず一般の方々をも対象とし、開催要領は協会Webサイトに掲載し、会員・一般に受講の機会を提供した。令和5年度は会場で3回開催した。総人数58名（会員54名、一般4名）。講座の概要は以下のとおり。

開催日	講演テーマ	講 師
4 月 26 日 (水)	第 288 回 戦禍のウクライナを取材して	産経新聞社 経済部 黒川信雄氏 参加者 18 名 (会員のみのみ)
6 月 7 日 (水)	第 289 回 PFI で拓く新しい美術館	大阪中之島ミュージアム 社長 曾根宏司氏 参加者 28 名 (会員 24 名、一般 4 名)
3 月 26 日 (火)	第 290 回 御座船から学ぶ大阪観光の今とこれから	伴ピーアール(株) 専務取締役 伴 陽介氏 参加者 12 名 (会員のみのみ)

オ 広報基礎講座（関西地区）

新人・新任の広報・CSR 担当者、PR プランナーをめざす人達向けの講座。大阪で 7 月と 12 月に開催。7 月の講座内容を「危機管理」一本に絞り、「危機管理広報対応の実務～謝罪会見を体験してみる！」をテーマに開催。会員のみならず一般の方々をも対象とし、要領は協会 Web サイトに掲載し、広く一般に受講の機会を公開した。7 月 27 日は会場開催。参加者 27 名（会員 26 名、一般 1 名）。12 月 11 日は会場とオンラインで開催。参加者 51 名（会場参加／会員 31 名、一般 3 名、オンライン参加／会員 17 名）。

講座の概要は以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講 師
7 月 27 日 (水)	第 1 部（講演） 不祥事が報道される基準とは	龍谷大学社会学部教授 岸本文利氏
	第 2 部 不祥事発生の模擬会見	指導役 岸本教授 カメラマン役 元 報道カメラマン 南川二郎氏
	第 3 部会見講評（VTR 視聴、問題点指摘、講評）	同上
12 月 11 日 (月)	新しい企業価値創造のカタチ ～ESG・非財務情報、広報の役割とは～	(株)電通 PR コンサルティング 企業広報戦略研究所 所長 阪井完二氏

カ 広報学校（関西地区）

中堅広報・PR パーソンを対象に、広報・CSR 活動のキャリアアップを目的として、令和 5 年 11 月 7 日に大阪で開催した基礎講座と重複しない内容・講師陣により終日開催の予定で計画した。受講者の対象が中堅広報パーソンのため、不祥事に於ける危機管理、SNS 対応などを重点とし、広報スキルの習熟、レベルアップに向けて中身の濃いかつ受講者のニーズを充足させる講座。

講師の都合がつかなかったことなどから令和 5 年度は開催を見合わせた。

キ 新春PRフォーラム関西

例年 1 月に開催。令和 5 年度は関西部会主催で講師に作家の玉岡かおる氏を招き、「小説家が想う関西の未来」をテーマに 1 月 29 日(月)に開催。会員のみならず一般の方々をも対象

とし、要領は協会 Web サイトに掲載し、広く一般に受講の機会を公開した。参加者 29 名（会員 21 名、一般 8 名）。

3. パブリックリレーションズに関する人材育成

(1) P R プランナー資格認定制度

P R プランナー資格認定制度は、広く社会の発展に寄与する P R パーソンとしての知識、スキル、職能意識を有することを認定し、広報・P R 業務に携わる人材の育成と技能向上に寄与し、広報・P R 活動の社会的認知の拡大を図ることを目的としている。

P R 関連会社や企業の広報部門の P R 担当者はもちろんのこと、将来 P R 関連業界や広報・P R 部門での業務を希望する人やビジネスパーソンに求められる広報・P R に関する知識やスキルを持ちたいと考えている人など、幅広い層を対象に、広報・P R の基本的な知識から実践的なスキルまでを問う資格検定試験である。

開催要領、合格基準は協会 Web サイトに掲載し、広く一般に受験の機会を公開している。

ア 実施運営

- ・令和 5 年度は、1 次試験から 3 次試験まで感染防止等の安全に配慮しながら CBT 方式で各 2 回実施した。
- ・試験実施時期については、2 次試験と 3 次試験をコロナ禍前と同時期のスケジュールに戻し、受験者にとって受験しやすい環境を整備した。※1 次試験は 2022 年度内に対応済
- ・令和 6 年 5 月に実施となる第 35 回 2 次試験の実施に向けて、準備を行った。

令和 5 年度の受験者数と合格者について

1 次試験

試験実施日	本申込者数	受験者数	合格者数	合格率
第 34 回（2023 年 8 月実施）	746 名	678 名	424 名	62.5%
第 35 回（2024 年 2 月実施）	655 名	603 名	452 名	75.0%
第 1 回からの累計	17,377 名	15,976 名	11,864 名	74.3%

2 次試験

試験実施日	本申込者数	受験者数	合格者数	合格率
第 33 回（2023 年 5 月実施）	262 名	242 名	187 名	77.3%
第 34 回（2023 年 11 月実施）	362 名	324 名	253 名	78.1%
第 1 回からの累計	8,789 名	7,993 名	6,121 名	76.6%

3 次試験

試験実施日	本申込者数	受験者数	合格者数	合格率
第 33 回（2023 年 7 月実施）	295 名	265 名	69 名	26.0%
第 34 回（2024 年 1 月実施）	361 名	339 名	122 名	36.0%
第 1 回からの累計	7,673 名	7,117 名	3,461 名	48.6%

イ 広報普及

- ・第 33 回、第 34 回の 1 次試験では、会員各位の協力を得た上で、会員社社員の受験促進に取り組んだ。併せて、日本広報学会、大学などの関係機関、外部セミナー機関などを通じて学生、一般社会人への受験を積極的に働きかけた。
- ・資格 Web サイトに情報を集約し、更なる普及に努めた。
- ・上記取り組みの結果、令和 5 年度の 1 次試験申込者数は、コロナ禍前の 2019 年度の 1,370 名を上回り、1,401 名となり過去最多を更新した。

ウ 試験問題の作成および採点

- ・より公正で納得性の高い検定試験を目指して、試験問題の作成に取り組んだ。特に試験問題の品質の向上と水準の安定化を図るため、過去問題の正答状況などの結果分析をもとに、それらを反映し試験項目に準拠した試験問題の作成に取り組んだ。
- ・CBT 方式の試験問題作問では、公正性、公平性が担保できる試験を構築するため、十分な数の試験問題を、試験専門委員と事務局とが一丸となって作成した。
- ・CBT 方式による初試験から 2 年目を迎え、試験の公平性・公正性はもとより、試験の安定性が向上した。
- ・中長期における試験項目の内容についての見直しに関して、前年度から継続して検討を行った。

4. パブリックリレーションズに関する顕彰

協会の中期計画（協会の安定的事業基盤の構築・協会のレピュテーションの向上・グローバル化の推進・若手 PR プランナーの育成）に基づき、顕彰事業の継続的運営と拡大に努め、協会活動への理解獲得、およびパブリックリレーションズ（PR）の普及と発展に寄与・貢献する。具体的には、PR の発展に貢献した案件・人材・組織の顕彰を実施し、PR の社会性や時代性のアピール、PR の技術と理論の向上を推進するとともに、PR の継続的発展に資する顕彰活動のアーカイブ化を行う。

(1) 日本 PR 大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー

日本 PR 大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤーとは、経済活動、文化・スポーツ、社会、教育などの分野でパブリックインタレスト（公益）に貢献し、かつ話題性、発信力の高さや共感の醸成など、パブリックリレーションズの視点から、この年に最も PR パーソンとして活躍した人を選考し、表彰する制度である。本年度は、これまでの投票による決定方式をあらため、PR に精通した実務者、メディア、研究者によってバランスよく構成された選考委員会の審議による決定方式とした。11 月 13 日（月）に実施した選考委員会にて、令和 5 年度は YOASOBI（音楽ユニット）を選出、表彰することを決定した。

受 賞 者	受 賞 理 由
YOASOBI 氏 （音楽ユニット）	YouTube の世界楽曲チャートで 1 位を獲得するなど、国を越えて老若男女にファンを増やしている。楽曲には原作となる小説があり、物語の世界観を拓けながら共感を得ていくコミュニケーションは、パブリックリレーションズに通じるものがある。また、出

	版事業の課題からスタートし、内外のステークホルダーを巻き込みながらプロジェクトとして大きな成果を上げていることや、メディアにおいても自らの考えを発信し、TikTok ライブなど様々な手法を活用して双方向に関係を構築していることなど、パブリックリレーションズの基本を体現している点が高く評価された。
--	--

(2) 日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー

平成 24 年度に新設された顕彰制度で、目的は広報のプロが「地道でかつ独創的な広報・PR 活動」を掘り起こすことにある。持続的に社会や地域の発展に寄与する活動を行い、独創的な広報・PR 活動を実践することで、奨励に値する成果を収めた個人またはグループを対象に、表彰する制度である。本年度は、これまでの投票による決定方式をあらため、PR に精通した実務者、メディア、研究者によってバランスよく構成された選考委員会の審議による決定方式とした。11 月 13 日（月）に実施した選考委員会にて、令和 5 年度は女性歌手デュオの Paix²（ぺぺ）を選出、表彰することを決定した。

受 賞 者	受 賞 理 由
Paix ² （ぺぺ） （女性歌手デュオ）	2000 年にデビューした女性歌手デュオで、「受刑者のアイドル」と呼ばれている。2002 年から刑務所を回って受刑者に歌を届け、眠っている良心を呼び覚ます活動を続けており、これまでに無報酬で行ってきた「プリズンコンサート」やトークセッションは 500 回を超える。社会復帰した元受刑者とも継続的につながりを持ってお互いの励みとし、刑務所関係者や自治体などと強い信頼関係のもとで連携するなど、パブリックリレーションズの理念に合致した活動を長年にわたって行っている点が高く評価された。

(3) PRアワードグランプリ

PR アワードグランプリは日本における優れた広報・PR 活動を顕彰することで、PR 技術の質的向上を図るとともに、PR のこれからの方向性を示す一助として、広く公益に資することを目的としている。審査団は、メディアやアカデミア、事業会社、PR 会社という各方面から構成している。審査方法は、審査団による審査を、ブロンズ以上を決定する一次審査とグランプリ・ゴールド・シルバーを決定する二次審査の二段階とし、さらに二次審査ではエントリー社との質疑応答機会を設けることにより、審査の深化を図っている。

令和 5 年度は、審査・表彰フレームなどの一層の定着化と質的向上、新型コロナウイルス感染状況に応じた対策に努めるとともに、引き続き認知拡大とエントリー数の増加をめざした。

また、日本における優秀事例を通した PR の普及・啓発に向け、継続的にアーカイブサイトの充実、ならびに他委員会と連携したセミナー、印刷物へのコンテンツ展開を図る。

本年度のエントリー応募総数は、令和 5 年 8 月 21 日（月）～10 月 16 日（月）までの応募期間で 96 件。内、非会員からの応募は 33 エントリー。

11 月 16 日（木）に審査団による一次審査会でブロンズ以上 16 エントリーが確定。12 月 13 日（水）開催のグランプリ審査会では、シルバー以上 9 組で非公開プレゼンテーションを実施・各賞が決定（グランプリ／ゴールド／シルバー／ブロンズ）。審議の結果、令和 5 年度グランプリは、エントリー会社（株）On-Co の「非流通空き家を借り手の想いで動かす『さかさま不動産』～逆転の発想で挑戦を応援するまちづくりへ～」に決定した。「ゴールド」2 件、「シルバー」に 6 件、

「ブロンズ」に7件、さらに奨励賞として1件を選出した。

12月13日（水）17時から時事通信ホールにて「PRアワードグランプリ 2023 表彰式および受賞者プレゼンテーション」を実施。一般来場も可とし、表彰式後には受賞者や関係者の懇親会も開催した。

また、前年度同様、経済産業省、日本広報学会、公益社団法人日本広報協会の後援をいただいた。

各賞の受賞作品は以下のとおり。

賞	活動の名称	エントリー会社
グランプリ	非流通空き家を借り手の想いで動かす「さかさま不動産」～逆転の発想で挑戦を応援するまちづくりへ～	(株)On-Co
ゴールド	日本に眠る5兆円の敷金をスタートアップの成長資金に変える「敷金を成長資金に。プロジェクト」	(株)はずむ
ゴールド	守るのは、頭と地球。HOTAMET	甲子化学工業／猿払村／TBWA HAKUHODO
シルバー	水族館の水槽を、サステナブルファッションを通じた海洋保全提唱の場に『サンゴショーウィンドウ』	(株)博報堂／(株)オズマピーアール
シルバー	日清食品の「完全メシ」事業	(株)博報堂
シルバー	夏、子どもの高さは大人より7℃も暑い!グリーンダ・カ・ラの熱中症対策啓発「こども気温」プロジェクト	サントリー食品インターナショナル(株)／(株)電通／(株)電通PRコンサルティング
シルバー	こどもの朝食欠食・孤食問題をこども食堂と共に解決「ケログ 毎日朝ごはんプロジェクト」	(株)プラップジャパン
シルバー	ジュエリーそのものを見てほしい。ブランド名を伏せて現れた謎のジュエリーショップ『匿名宝飾店』	(株)エフ・ディ・シィ・プロダクツ
シルバー	うま味調味料「味の素®」統合PR～50年もの誤解を乗り越え、食と健康の課題解決へ～	Edelman Japan(株)
ブロンズ	「全員広報」が叶えた住宅診断マーケットの創出	(株)さくら事務所
ブロンズ	気づいていたけど、みんなが諦めていた“子遊び疲労”解消へ。整体つきキッズパーク「ホグシーランド」	(株)オズマピーアール
ブロンズ	冷凍餃子フライパンチャレンジ ～1つのクリーム投稿から始まった「永久改良」の共創活動～	(株)本田事務所
ブロンズ	建築現場の労働災害“0”を目指した「ラジオ体操 第バ」	モバーシャル(株)／(株)東北新社
ブロンズ	「かわいい!」だけだと思ってない?「飼育員さんだけが知ってる あのペットのウラのカオ」	(株)博報堂ケトル
ブロンズ	酪農家と子どもを救うソーシャルアクション【土日ミルク】-給食のない休日は、おうちで牛乳を飲もう-	(株)オズマピーアール
ブロンズ	循環型社会の実現に向けて、地方自治体がメルカリに“まだ使える”粗大ごみ・備品を出品	(株)メルカリ
奨励賞	メディア専用デジタルプラットフォーム「PR Relate」活用による新たな広報の価値づくり	パナソニック(株)

II. 収益事業（パブリックリレーションズに関する出版物の発行）

1. 2023 PR Yearbook

協会から社会に向けて発信するツールとして、協会活動の年間の記録を通して、現在のPR業界の姿が見えるような内容を心がけた。

当該年度に発生した様々な事案について、協会メンバーを中心としつつメディア、企業、PR業等
各々の立場におけるPRプロフェッショナルの視点で語る座談会や、優れた広報活動と実践者を顕
彰する「PRアワードグランプリ」「日本PR大賞」の継続的な掲載と共に、世界の好例を紹介して
いくことで、国内外のPR業界の動きにおいてもアーカイブとしての価値をより強めていけるよう、
実務家中心の会員の興味と共感を得られるような構成とした。

さらにこれまで個別に作成していた協会パンフレットなどのツールに代用し、他委員会や部会のイ
ベント等での告知や販売などを行うことで、協会活動の認知促進と新規会員獲得に寄与できるもの
とした。

2. 広報・マスコミハンドブック（PR手帳 2024）

全体構成は踏襲するが、巻頭企画「今を読み解くキーワード」「知っておきたいファクトデータ」に
ついては、その鮮度を保ち、時代性をとらえるものとするため議論を重ねて編集を行った。

広報・PRプランナーの実務での「必携ハンドブック」として高いレベルでの正確性を維持しつつ、
時代に即して電子化出版にも取り組んだ。

3. PRプランナー資格認定検定試験対応テキストの作成および販売

- ・令和5年度は、CBT方式の試験体系に対応したテキストの編集と発刊に取り組んだ。

- ・『広報・PR概説 2024年度版』（1次試験対応）

全章にわたる改訂と、統計データ等を更新した「2024年度版」に向け、発刊準備を行った。発刊は、
令和6年4月となるが2,000部刊行予定となっている。これまでに刊行された『広報・PR概説』
の発刊数は、2019年の初版から今回までで、1万部を超え、12,300部となった。

- ・『広報・PR実践 2022-2023年度版』（2次・3次試験対応）

令和5年度は、一部内容の改訂と、統計データを更新した「2022-2023年度版」の重版（2刷）を9
月に500部刊行した。令和5年『広報・PR実践』の発刊数は、2019年の初版から今回までで6,000
部となった。さらに、2024-2025年度版の発刊に向け準備を開始した。

- ・『広報・PR資格試験問題集 2023年度版』

（PRプランナー資格認定制度 1次・2次・3次試験 参考問題集）

試験問題を一部改訂した「2024年度版」の発刊準備を行った。発刊は、令和6年6月となり、2,000
部刊行予定となっている。これまでに刊行された部数は、2019年の初版から今回までで8,500部と
なった。

III. その他事業（会員の交流事業・会員向けセミナー・研究会および広報活動 など）

1. 会員の交流事業

(1) 情報交換会

会員を対象とした情報交換会を年1回開催する。会員相互の交流を通じた懇親を図ると共に、当協会の諸活動の理解を図る一助とする。特に、新規入会者、既存会員から交代した名義変更会員、また協会イベントへの参加実績のない会員などを対象にし、企業部会、PR業部会とも連携して、当協会概要に加えて各委員会ならびに部会のオリエンテーションを兼ねる機会としている。コロナ禍は開催を見合わせていたが、令和5年度は7月12日(水)に開催、2020年以降の新入会員と名義変更者（正会員）を優待料金でご案内し、新入会員20名を含む69名が参加した。

(2) They Talk Forum

働く女性のロールモデルとなる講師をお招きするなど、女性活躍やダイバーシティ&インクルージョンの推進をテーマとしたセミナーを中心に、会員同士のネットワーキングを築く場として、年に2回程度開催する。令和5年度は計2回の講演を会場で開催した。講座の概要は以下のとおり。

開催日	講演テーマ	講師/参加者
6月16日 (金)	誰も歩いたことのない道を ～“Embrace yourself!” 自分を抱き しめて生きるということ～	日本テレビ放送網(株) 映画プロデューサー 谷生俊美氏 参加者 27名
11月20日 (月)	自分の言葉を育てるには リーダーシップに必要な言葉	アナウンサー 山根基世氏 参加者 23名

(3) 企業部会総会

企業部会の全会員を対象に、特に新規入会者、既存会員から交代した名義変更会員、また協会イベントへの参加実績のない会員などに向けて、協会活動・イベント全般の説明と委員会・部会活動への参画メリットを体感いただくことを目的に開催。令和5年度は7月5日(水)に立食パーティー形式で開催した。参加者は34名。

(4) PR業部会総会

PR業の会員社を一堂に会し、部会活動の報告と、会員各社の意見交換を行う場として、PR業総会を2年に1回をめぐりに開催する。令和5年度はスケジュールの都合等から開催を見合わせた。

2. 会員向けセミナー／研究会など

(1) 定例研究会

ジャーナリストやオピニオンリーダーなど各分野のキーパーソンを招き、隔月で開催する講演会。パブリックリレーションズ実務者のニーズや会員の要望に応える“旬な講師”を招き開催する。令和5年度は、感染症をめぐる社会状況に考慮しながら対面開催も検討し、講師および参加者相互のコミュニケーション、交流に配慮した。令和5年度はライブのオンライン配信で1回、オンデマンドのオンライン配信をともなう対面セミナーを4回開催した。対面セミナーにはのべ152名（1回平均38.0名）、オンライン参加はのべ159名（1回平均31.8名）となり、概ね好評のうちに終了した。各回の概要は以下のとおり。

[オンライン] (ライブ) 令和5年 5月24日(水)	第225回定例研究会 ネットにおける情報流通の現状とPR パーソンの「メディアリテラシー」～ ネットに溢れる情報をいかに見極め活 用すべきか～	ジャーナリスト／(株)メディアコ ラボ 代表 古田大輔氏 ライブ(オンライン) 聴講者：32名
[対面] 令和5年 7月28日(金) [オンデマンド] 8月8日(火)～ 9月4日(月)	第226回定例研究会 『日経クロストrend』の取扱説明書～ 編集方針と最新マーケットrend、そして PRパーソンとのいい関係～	日経BP『日経クロストrend』編 集長 勝俣哲生氏 対面聴講者：23名 オンデマンド聴講者：28名
[対面] 令和5年 9月15日(金) [オンデマンド] 9月26日(火)～ 10月23日(月)	第227回定例研究会 デジタル時代における「日テレ」の経 済報道	日本テレビ放送網(株) 報道局経済 部 担当部次長／解説委員 大野 伸氏 対面聴講者：35名 オンデマンド聴講者：28名
[対面] 令和5年 12月1日(金) [オンデマンド] 12月12日(火)～ 令和6年1月12日 (金)	第228回定例研究会 ダイヤモンド『DX改革の死闘』 経済メ ディアの生き残る道	(株)ダイヤモンド社 ダイヤモンド 編集部 編集長 浅島亮子氏 対面聴講者：49名 オンデマンド聴講者：23名
[対面] 令和6年 3月13日(水) [オンデマンド] 3月26日(火)～4 月19日(金)	第229回定例研究会 日経のビジネス報道改革～日経産業新 聞3月末休刊後は？～	日本経済新聞社 日経産業新聞 編 集長 松井 健氏 対面聴講者：45名 オンデマンド聴講者：48名※3/31現 在

(2) PRプランナー・創発ワークショップ

PRプランナー同士の交流促進と目指すべきPRプロフェッショナル像とPRプランナーとしてのキャリア形成について考え、話し合う機会として「PRプランナー・創発ワークショップ2024」を3月9日(土)に開催した(参加者は26名)。対象は、2020年以降に新規でPRプランナーを取得した、約400名。内容は、3部構成となり、第1部では、『PRプロフェッショナ

ルへの期待』と題し、企業コミュニケーションの現場で長年の経験を有し、PRプランナーでもある(株)三菱UFJフィナンシャルグループ、経営企画部 ブランド戦略グループ 部長 チーフ・コーポレートブランディング・オフィサーの飾森 亜樹子氏（当協会理事・資格委員会委員長）の、これからのPRプロフェッショナルに求められるナレッジ、スキル、キャリア等についての講演を実施。

第2部では、「自らが目指すPRプロフェッショナル像」を主テーマとするワークショップとして、コア・エリート(株) 代表取締役社長の丸山 寛之氏（PRプランナー取得者）をファシリテーターに、目指すべきPRプロフェッショナル像や、PRプランナーとしてのキャリア形成について、いくつかのグループに分かれワールドカフェ形式で討議した。

第3部は交流会として、会社や業界の枠を越えた相互の情報交換・親睦を行った。

(3) 国際セミナー

海外の最新の広報手法を学び、かつ国際的視野で活動できる人材育成に寄与することを目的とし、グローバルPRの最新事情、国際的視野拡充に寄与するテーマをもとに、国内外の講師をお招きした国際セミナーを、年2回程度開催する。令和5年度は会場1回、オンライン2回、合計3回のセミナーを開催した。講座の概要は以下のとおり。

開催日	講演テーマ	講師/参加者
5月12日 (金)	(オンライン) NHK 前ヨーロッパ総局長に聞く ウクライナ戦争で加速するパラダイムシフト～分断される世界に何を発信すべきか	(株)日本国際放送 代表取締役社長／CEO 高尾 潤氏 参加者：64名
9月21日 (木)	(オンライン) カンヌ・ライオンズ 2023 PR部門受賞作品から見えてくるもの	(株)電通 PR コンサルティング 執行役員 井口 理氏 PR コンサルタント 尾上玲円奈氏 (株)博報堂 執行役員／博報堂ケトル クリエイティブディレクター・編集者 嶋 浩一郎氏 (株)本田事務所 代表取締役／PRストラテジスト 本田哲也氏 参加者：106名
3月22日 (金)	(会場)国際メディアに映る日本とは～How to project Japan to the world～	講師：フィナンシャルタイムズ東京支局長 稲垣佳奈氏 モデレーター：ウェーバーシャンドウィック エグゼクティブ バイスプレジデント 高田敏矢氏 参加者 44名

(4) 大使館訪問

駐日・在日大使館の大使ならびに大使館員による講演、懇親会における国際的な交流を通じ、諸外国の国家事情や文化を学び、会員の国際的視野の育成を目指し、年1回程度開催する。令和5年度は1回開催、28名が参加した。概要は以下のとおり。

開催日	講演テーマ	講師/参加者
3月26日 (火)	「在日カナダ大使館」訪問	①カナダグローバル連携省 2025年大阪・ 関西万博カナダ政府代表 ローリー・ピー ターズ氏によるブリーフィング（逐次通 訳付） ②館内見学 ③buffestailの交流会 参加者 28名

(5) 企業部会フォーラム

企業部会会員多数が集う場として、メディアの動きや企業部会会員の直近ニーズをテーマに、外部講師を招いた講演会の形式で開催。講演会の後は講師も交えた懇親会を併せて開催し、会員相互の親睦、ネットワーク作りの機会を提供する。令和5年度はトップ広報をテーマに開催を計画し、西武ホールディングス西山社長への依頼を検討していたが、協会の目指す「CPR0」のモデルケースであることから、部会活動ではなく協会活動としての「PRSJ 新春PRフォーラム」の特別講演へのご登壇をお願いすることに変更したため、今年度は企業部会フォーラムとしての活動は見送った。

(6) 広報活動研究会

企業の広報部門やショールーム、お客様向け施設などを訪問し、幅広い視点から、さまざまな活動事例や、組織や業務のあり方（文化施設等によるコーポレート・コミュニケーション、ブランディングなど）を学び体感することで、自社の広報部門における活動に向けたヒントを持ち帰っていただくことを目的に令和5年度は3回開催した。講座の概要は以下のとおり。

第29回の研究会では、初めての関西部会との共同開催を実現し、首都圏中心の企業部会会員も多数参加して、関西部会の正会員との貴重な交流の機会となった。講座の概要は以下のとおり。

開催日	内 容	
6月5日 (月)	第28回 「株式会社オカムラ ショールーム&ラボオフィス」見学会	参加者 18名
10月6日 (金)	第29回（共催：関西部会） 「近畿大学 東大阪キャンパス」見学会	参加者 37名
3月7日 (木)	第30回 「ヤマトグループ歴史館 クロネコヤマトミュージアム」見学会	参加者 30名

(7) 広報ゼミ

企業内での広報部門の地位向上、また広報のスキル向上を目指し、各回タイムリーなテーマを設定し、参加各社から自社広報活動上の課題を報告後、質疑応答、議論するゼミナール形式の勉強会。本音ベースの意見交換により、より高度な知識・スキルの獲得、会員同士の横のネットワーク構築をめざす。令和5年度は会場とオンラインのハイブリッドで3回開催した。

講座の概要は以下のとおり。

開催日	講演テーマ	講師/参加者
6月9日 (金)	第43回 (ハイブリッド) 企業のサステナビリティ活動とコミュニケーションについて ～SDGsの取り組みの実態と広報部門に求められる役割とは～	凸版印刷(株) 情報コミュニケーション事業本部 SDGs 事業推進室 室長 (兼務) 社長戦略室 SDGs ビジネス担当 / 学会「企業と社会フォーラム」理事・プログラム委員 今津秀紀氏 参加者: 0L51名、会場12名、計63名
12月8日 (金)	第44回 (ハイブリッド) インターナルブランディング・インターナルコミュニケーションの最新事例～社員のエンゲージメントを高める社内広報・社内ブランディングとは？	登壇者: ヤマハ(株) コーポレート・コミュニケーション部 社内広報グループ 石部 卓氏 エバラ食品工業(株) 執行役員経営企画本部長 上岡典彦氏 広報室 堤つばめ氏 モデレーター: LINE ヤフー(株) コーポレートコミュニケーション統括本部 コーポレートコミュニケーション本部 紺野篤志氏 参加者: 0L50名、会場35名、計85名
1月25日 (木)	第45回 (ハイブリッド) 広報パーソンの魅力向上委員会～キャリア開拓の先駆者に学ぶ#2～	登壇者: ヤマト運輸(株) 執行役員 コミュニケーション担当 細谷祥久氏 日本マクドナルド(株) 広報部 部長 眞野昌子氏 モデレーター: (株)野村総合研究所 コーポレートコミュニケーション部長 宮原由香理氏 参加者: 0L55名、会場18名、計73名

(7) ワイガヤ会

次代を担う若手PRパーソンの育成が、これからのPRの発展にとって不可欠であり、協会の基本計画の骨子にもなっている。協会アドバイザーメンバーを迎えて開催し、会社の壁を超えた会員会社社員同士の交流を図ることで、具体的な育成施策の課題・システム・手法について検討を重ねながら、PR業界の将来性を示唆する取り組みを継続実施する。令和5年度は2回会場開催した。講座の概要は以下のとおり。

開催日	講演テーマ	講師/参加者
7月4日 (火)	アフターコロナのPRってどうなる？ ～カンヌの速報も含めてリアルで語ろう～	(株)電通 PR コンサルティング 執行役員 井口 理氏 (株)博報堂 執行役員/博報堂ケトル クリエイティブディレクター・編集者 嶋 浩一郎氏 (株)本田事務所 代表取締役/PRストラテジスト 本田哲也氏 (株)井之上パブリックリレーションズ 執行役員 尾上玲円奈氏 参加者: 47名
2月29日 (木)	2024年、PRの仕事はようになる？AIやDX、ステマ規制などの影響は？業界のレジェンドと熱く語ろう	(株)電通 PR コンサルティング 執行役員 井口 理氏 (株)博報堂 執行役員/博報堂ケトル クリエイティブディレクター・編集者

		嶋 浩一郎氏 (株)マテリアル 取締役 尾上玲円奈氏 参加者：22 名
--	--	---

(8) P Rスキル研究会

P R会社、P R関連会社の若手社員を対象とした勉強会として、過去 50 回近く実施した無料セミナーを令和 5 年度も継続。年 3～4 回の開催を目指す。P Rの最前線で必要とされる知識やスキル習得を目的としたテーマや、時代性を反映したタイムリーで旬なテーマなど、各社の要望やニーズを反映させることで、多くの参加者を募る。また参加者同士の情報交換、意見交換の場として活用する。令和 5 年度はオンラインで 2 回、会場で 1 回計 3 回開催した。講座の概要は以下のとおり。

開催日	講演テーマ	講師/参加者
5 月 16 日 (火)	第 49 回 (オンライン) 最新危機事例・炎上事例から学ぶ危機 管理広報	(株)エルテス マーケティング・広報 責 任者 奥村高大氏 参加者：56 名
11 月 8 日 (水)	第 50 回 (オンライン) 人事と広報の課題を解決する P R プラ ンニング-H R × P R 市場のトレンド と最新事例から学ぶ	登壇者：(株)PR Table 共同代表取締役 / Founder 大堀 航氏 (株)オズマピーアール コーポレートコ ンサルティング部 編集者・ファシリテー ター・PR プランナー／早稲田大学商学部 招聘講師 嘉悦大学経営経済学部非常勤 講師：濱地 徹氏 モデレーター：(株)PR Table PR 室 室長/Evangelist 久保圭太氏 参加者：33 名
2 月 28 日 (水)	第 51 回 (会場開催) バルセロナ原則 3.0 から考える、P R 活動の適切な評価指標とは？	(株)インテグレート 戦略コンサルティ ング事業本部アナリティクス&データ部 白井俊行氏 参加者：18 名

(9) P R経営者懇談会

P R業各社の経営者が一同に集い、情報交換や経営課題を共有する場として実施する。

経営者に関心の高いテーマ（海外事情、経営、人事、労務など）に基づいた講師を招聘しての勉強会を実施し、講師を囲んだ懇談会形式で開催した。講座の概要は以下のとおり。

開催日	講演テーマ	講師/参加者
3 月 13 日 (水)	今のマスコミ志望就活生の志向と実態	(株)マスメディアン 「マスナビ」事務 局／『マスナビ BOOKS』編集部 小林健太郎氏 参加者：22 名

(10) インボイス制度・改正電子帳簿保存法説明会

10 月 1 日から始まったインボイス制度と改正電子帳簿保存法についての勉強会を開催。財務省の担当職員の方から直接インボイス制度・改正電子帳簿保存法について説明いただいた。P R業部会だけでなく企業部会会員にとっても必要な情報のため企業部会会員にも対象を広げ 7 月 3

日（月）オンラインで開催。参加者 68 名。

(11) 消費者庁ステマ規制に関するセミナー

10 月 1 日から規制が始まった消費者庁のステルスマーケティングの景品表示法違反について、勉強会を開催。PR 業だけでなく企業部会会員、個人会員にとってもニーズがあるテーマのため対象を正会員、個人会員とし、より多くの方に参加していただくため 3 月 12 日（火）会場開講、後日オンデマンド配信で実施した。講座の概要は以下のとおり。

開 催 日	講演テーマ	講師/参加者
[会場] 令和 6 年 3 月 12 日（火） [オンデマンド] 3 月 26 日（火） ～4 月 19 日 （金）	消費者庁ステマ規制に関するセミナー	池田・染谷法律事務所 染谷隆明氏 参加者：会場 24 名、オンデマンド 配信 13 名※3/31 現在

3. 他団体などの交流事業

当協会以外の関連諸団体等との交流を図り、会員の活動の場、並びに広報・PR 周辺領域の場を広げ、啓発並びにネットワーキングに資する活動を行うことを目的とする。

- ・ IPRA、PRSA など海外の広報関連団体との交流促進と関係強化
- ・ カンヌ・ライオンズ、スパイクス・アジアなど海外の賞との連携強化に向けての検討
- ・ PRovoke Media、PR WEEK など海外における業界メディアとの関係づくりの検討
- ・ 上記の活動実施報告として、協会 Web サイトにおいて、英文コンテンツを掲載した。

4. 広報活動

(1) 協会ニュース

唯一のインナーツールであり、協会と会員、会員同士のリレーションを深めるツールとして、引き続き改善を加えてきた。会員ベネフィットとして読者の要望に応えるよう試行錯誤を重ねている。

(2) Web サイト・ソーシャルメディア

新規会員の獲得、既存会員への情報提供に加え、広く公益法人としてパブリックリレーションズの理解促進につながる情報発信を行った。

Web サイト

- ① サイト運営はアクセス解析等の分析を踏まえて改善を継続し、「使えるサイト」としての磨きをかける。
- ② 独自コンテンツ制作の発信頻度、質向上を図り、「読まれるサイト」としての充実を図ることで Web サイトアクセスの拡大を図る。
- ③ 協会宣言や中期経営計画、各委員会・部会活動等との連携を強化し、協会全体としての発信力を強めていく。
- ④ 社会におけるトレンドワード等に敏感に反応し、パブリックリレーションズと紐づけて発

信することで、新規会員獲得のための協会認知促進につなげたい。

ソーシャルメディア

①Web サイトとの連動を Facebook、X（旧 Twitter）を中心に行い、教育委員会の講座などへの関心・参加を高める。

②協会主催等の情報だけでなく、広くパブリックリレーションズに関わる事象についての発信を試みたい。

(3) メディアリレーションズ

協会発のコンテンツの充実、多様化を図るために広報委員会のハブ機能を強化していく。

講座やセミナー、PRプランナー試験の CBT 化により対象エリアが全国規模内になったこの機会をとらえて、ニュースリリースの効果的配信等で既存業界媒体以外にも広く広報パーソンにリーチできるメディアを開拓し積極的に広報していく。

また、上記の活動の中から経営層に関心が高いコンテンツを活用し、メディア展開を図ることで経営層へのパブリックリレーションズの関心喚起を図った。

配信日	ニュースリリース
4 月 24 日	パブリックリレーションズ(広報・PR)業務と人材育成に関する調査
5 月 23 日	日本パブリックリレーションズ協会が「PR 業実態調査」を実施
6 月 1 日	PRSJが「“ひとり広報” 実態調査」を実施
8 月 7 日	「PR アワードグランプリ 2023」8月21日からエントリー受付開始
10 月 6 日	PRSJ “ひとり広報” MEET UPを開催
12 月 4 日	「PR アワードグランプリ2023」が決定
1 月 23 日	2023年度日本PR大賞が決定

メディアなどから取材を受けた情報、掲載された情報は以下のとおり。

掲載日	媒体名	内 容
4 月 1 日	『月刊広報会議』 5 月号	当協会の連載コラムで、PRプランナー認定取得者の累計が2022 年 12 月で 3096 名に達したことについて紹介。
5 月 1 日	『月刊広報会議』 6 月号	当協会の連載コラムで、当協会が実施したアンケート調査「パブリックリレーションズ（広報・PR）業務と人材育成」の結果報告について紹介。
5 月 29 日	『週刊企業と広告 （東京）』 5 月号	3 月に実施した「PR 業実態調査」についての記事が掲載。
5 月 29 日	『日本事務機新聞 （大阪）』 5 月 29 日号	当協会が一般企業を対象として実施した「パブリックリレーションズ（広報・PR）業務と人材育成に関する調査」についての記事が掲載。
6 月 1 日	『月刊広報会議』 7 月号	当協会の連載コラムで3 月に実施した「PR 業実態調査」について紹介。
6 月 12 日	『CM通信』 6 月 12 日号	当協会が実施した「PR 業実態調査」についての記事が掲載。
6 月 20 日	『企業と広告』	当協会が実施した「PR 業実態調査」についての記事が掲載。

	7月号	
7月1日	『月刊広報会議』 8月号	当協会の連載コラムで、当協会が実施した“ひとり広報”に関する実態調査の結果について紹介。
8月1日	『月刊広報会議』 9月号	当協会の連載コラムで、当協会の「2023 PUBLIC RELATIONS YEARBOOK」の発行について紹介。
8月25日	『千葉日報』 8月25日号	当協会が「PRアワードグランプリ2023」エントリーを受付していることについての記事が掲載。
9月1日	『月刊広報会議』 10月号	当協会の連載コラムで、当協会の国際・交流委員会が開催した「国際セミナー」と「They Talk Forum」について紹介。
10月1日	『月刊広報会議』 11月号	当協会の連載コラムで、当協会が行った「PRアワードグランプリ2023」のエントリー募集に関する審査員長のコメントについて紹介。
11月1日	『月刊広報会議』 12月号	当協会の連載コラムで、3月に実施されたPRプランナー3次試験合格者のインタビューを紹介。
12月1日	『月刊広報会議』 1月号	連載コラムで、「広報・マスコミハンドブック (PR 手帳) 2024」の発行について紹介。
12月7日	『CM通信』 12月7日号	当協会が「PRアワードグランプリ 2023」の各賞を決定したことについて掲載。
12月8日	『日経ビジネス』 12月11日号	当協会が表明した、PR活動における「構成および中立性・公平性の原則」についてのコメントが掲載。
1月1日	『月刊広報会議』 2月号	連載コラムで、当協会が開催した「“ひとり広報” MEET UP」の初開催について紹介。
2月1日	『月刊広報会議』 3月号	当協会の連載コラムで、「PRアワードグランプリ 2023」の各賞受賞について紹介。
2月10日	『広報』2月号	「PRアワードグランプリ 2023」を決定したことが掲載。
3月1日	『月刊広報会議』 4月号	当協会の連載コラムで、当協会が1月22日に「新春PRフォーラム」を開催したことについて紹介。

5. 中期経営計画に関連する活動

(1) パブリックリレーションズ・プロフェッショナル育成に関する計画

パブリックリレーションズ・プロフェッショナル育成に向けた新たな取組として、講座形式のプログラムに加え、実習型のプログラムの第一弾として「緊急記者会見トレーニング」を実施。今後コロナ禍の影響がなくなったこともあり、さらにこうした実習型のプログラム開発にも取り組んでいく。

(2) 個人会員向けの活動

個人会員と関連の深い「ひとり広報」について昨年度に引き続き協会横断のワーキンググループを組成し、検討と具体的な活動を行った。

今年度は、「ひとり広報」について一般も含めたイベント、PRSJ “ひとり広報” MEET UP を会場とオンラインのハイブリッドで開催。有識者によるナレッジの提供や当事者間での情報共有・交流を図った。10月30日(月) 17時～18時半から近大東京センター会議室及びZoom ウェビナーで開催した。最終申込者数：会場 22 名、オンライン 45 名。

当日の参加者数：会場 22 名、オンライン同時ビューの最大数 42 名、視聴者数 42 名。

さらにこのイベントのレポートも含めた「ひとり広報」に関する特集コンテンツを PRSJ ウェブサイトに掲載。「ひとり広報」テーマについては個人会員を含めた協会全体の関心事として、次年度以降も各委員会、部会にて取り組んでいく。

また、個人会員の意見聴取にもとづいたさらなる対応施策を検討する。

※講師の所属・肩書については全て講座開講時点のものです